

はじめに

「なんだかこの人、すごく感じがいいな」と思ったことはありませんか？ 特別に難しいことを言っているわけではないのに、言葉の端々に優しさや思いやり、穏やかな雰囲気を感じられて、こちらまで安心した気持ちになります。

私たちがどんな言葉を選び、どう伝えるかによって、相手に与える印象は大きく変わります。これは英語でも同じ。ほんの一言の言い回しやニュアンスの違いが、相手に伝わる印象を大きく左右します。

たとえば、相手の申し出を断るときに、ただ“No.”とだけ言うのと、“I wish I could, but...”(できたらいいんだけど…)と言うのとでは、伝えている内容は同じでも、相手が受ける印象はまったく違います。このように、英語にも日本語と同じように、表現を柔らかくしたり、丁寧にしたり、相手への配慮を感じさせる言い方がたくさんあります。

この本では、そんな「感じがいい」印象を与える英語表現を数多く紹介しています。それぞれのフレーズには、用法の解説、自然な会話例、関連表現が添えてありますので、日常会話での自然な使い方やニュアンスをバランスよく理解できるようになっています。

< この本の特長 >

この本は、英語を「通じる」だけでなく「感じよく伝える」力を身につけたいすべての方に向けています。学生や社会人、英語を学び直したい方など、レベルを問わず活用できる内容になっています。

教科書で学ぶ「丁寧な英語」は、形式ばかりで実際の会話ではほとんど使われないものも実は多く含まれています。本書では、自然で日常的に使われる表現を紹介し、相手により印象を与えられる英語力を身につけるお手伝いをします。どの表現もネイティブスピーカーが日常会話で自然に使っているもので、丁寧で思いやりのあるトーンを持つものばかりです。このような「感じのいい」表現を身につけられれば、丁寧な緩衝表現や共感を示す言い回し、文化的に配慮された表現などを通して、自然に優しさや敬意、思いやりを伝えることができますでしょう。

また、こうした表現はポジティブな場面だけでなく、ネガティブな状況でも役立ちます。たとえば、謝罪をしたり、断ったり、悪い知らせを伝えたり、繊細な話題を切り出したりする場面では、どんなに内容が難しくても、適切な言い回しを選ぶことで、会話の雰囲気や丁寧で温かいものに保つことができます。本書で紹介する表現は、そうしたさまざまな場面で、相手に配慮しながら丁寧に気持ちを伝えるための助けになります。

<この本の構成と使い方について>

本書の内容は、たとえば、挨拶・社交・好み・感情・励まし・感謝・謝罪・依頼・意見・人間関係・ビジネスシーンなど、テーマ別に整理されています。このようにテーマごとに分かれているため、日常生活のさまざまな場面で使える表現を簡単に見つけることができます。そして、こうした丁寧で思いやりのある言い回しを身につけていくことで、英語でのコミュニケーションに自信が付き、より自然で心のこもった会話ができるようになるはずです。

気になるテーマから読んでもよし、最初から順に読んでもよし。フレーズを声に出して練習し、日常のちょっとした場面で使ってみることで、英語で気持ちを伝えることに少しずつ自信がついていくはずです。

本書の目的は、単に「正しい」英語を紹介することではありません。大切なのは、言葉に自然な温かさや思いやりを込めて、相手により印象を残すことです。思いやりのある表現を使うことは、人間関係をより深く、よりよいものにしていく大切な手段です。だって、英語はテストのためのものではなく、人と人をつなぐ「橋」なのですから！ だからこそ、共感や敬意をこめた表現を選ぶことが、よい印象を与えるうえでとても大切なのです。

この本が、あなたのそばで頼れる存在となり、温かく自然な英語表現を身につけていく手助けとなることを願っています。どんな場面でも安心して使える「感じのいい英語」を少しずつ増やしていきましょう。